

昭和53年7月30日

各都道府県教育委員会殿  
各市区町村教育委員会殿  
各都道府県幼小中学校長殿

全国バズ学習研究連絡会長

姫路市立白鷺中学校長

永 井 辰 夫

第13回全国バズ学習研究会会長

広島県豊町立豊中学校長

新 田 正 彦

## 第13回全国バズ学習研究集会御案内

「教育とは何か」「指導とは何か。」という教育の本質を究めようと「バズ学習」の名のもとに教育研究を行なっていました。そして、今年第13回の全国研究集会を迎えることができました。

今次集会は、教育の基盤である地域教育づくりをめざし、具体的には、幼・小・中・高一貫した教育態勢づくりを、各校教育実践者ならびに教育研究者が一堂に会し、それぞれの立場から実践を出し合い、討議し合う中で模索することを、主要なねらいに致しました。

今次集會を下記要項にもとづいて開催致しますので、ぜひ先生方に御参加いただきたく、御案内を申し上げます。

### 開 催 要 項

- |        |   |
|--------|---|
| 1 開催期日 | 昭和53年10月20日(金)21日(土)(2日間)   |
| 2 研究主題 | 地域の教育課題をふまえた教育内容の創造<br>——幼・小・中・高一貫教育態勢づくりをめざして——  |
| 3 主 催  | 全国バズ学習研究連絡会<br>広島県豊高校区教育推進協議会   |
| 4 共 催  | 広島県教育委員会<br>豊町ならびに豊町教育委員会<br>豊浜町ならびに豊浜町教育委員会<br>広島県高等学校教職員組合                                  |
| 5 後 援  | 広島県同和教育研究協議会<br>広島県尾三地区高等学校同和教育推進協議会<br>広島県解放・バズ教育推進研究会高校部会<br>広島県豊田郡下島PTA連合会<br>広島県立豊高等学校PTA |

## 6 会 場 広島県豊田郡豊町・豊浜町 (案内図参照)

全 体 会 場 豊町立豊中学校体育館

分 科 会 会 場 豊町立久比小学校

豊町立豊中学校

広島県立豊高等学校

公 開 授 業 校 (1) 豊町立沖友小学校・同幼稚園

(2) " 久比小学校・同幼稚園

(3) " 豊小学校

(4) " 豊中学校

(5) 豊浜町立斎小学校

(6) " 大浜小学校

(7) " 豊島小学校

(8) " 豊浜中学校

(9) 広島県立豊高等学校

## 7 日 程

日	時	9:00	10:00	12:00	13:00	15:00	16:30
10月 20日(金)		受付 (各校で)	公開授業 (9校)	会場移動 昼食 (全体会場)	開会行事 基調提起 (全体会)	分科会 (3会場)	司会者 打ち合せ
10月 21日(土)			分科会第2日 (3会場)	会場移動 昼食 (全体会場)	記念講演 閉会行事 (全体会)		

## 8 記念講演 講師 名古屋大学名誉教授 南山大学教授 塩田芳久先生

## 9 本研究集会のねらい

21世紀がそこまで近づいている今日の社会において、その21世紀を生きようとする児童、生徒はなによりも人間尊重の精神に基づいた民主的な社会人として成長することが要請されています。

それには、学校教育においても、あらゆる教育活動を通じて、児童・生徒が相互に認め合い、協同して、自己課題を達成していける力を体得できるように援助しなければなりません。

そして、その教育内容は、児童・生徒とそれを取り巻く地域の実態を直視する中で、教育課題をつかみ、幼・小・中に準義務教育化された高をも包括し、一貫した教育態勢の確立をめざしつつ創造するものでなければなりません。その観点から、今年度結成された組織が、本研究集会の地元実行委員会である、広島県豊高校区教育推進協議会であります。

この教育運動は、差別を許さない子どもを育てる同和教育と認知的学習と態度的学習の同時的達成をねらうバズ学習とが統合される中で展開されようとしています。

したがって、本研究集会においては、そうした地元の運動を援助する意味も含めて、全国の幼・小・中・高、それぞれの立場での実践を出し合い討論し、共通理解の上に立って、地域の教育課題とは何か。その教育課題をふまえた一貫教育態勢とはなにをすることなのか。を可能なかぎり明らかにしたいと願っています。

こうした観点からの教育活動の必要性は認めながら、そうした実践の報告が極めて少ないのが現状ではないかと思えます。

本研究集会においては、可能なかぎり幼・小・中・高の共通の場を求めて、この一点に集中した研究会として、文字通り創造への第一歩として成功を期したいと思えます。

10 分科会構成ならびに役員一覧 (若干の変更がある場合もあります。)

分科会名	研究主題	研究内容	提案校	お	よ	び	提案者
第1分科会 (一貫態勢づくり)	一貫態勢づくりをどうすすめるか。	基調提起を受けて一貫教育態勢づくりの具体的な方向付けを模索する。	船場小 白鷺中 校区教推進協(現地)	(姫路)	三村寛次 山本亀夫 横手三重子		
第2分科会 (学級集団づくり)	学級集団づくりをどのようにすすめるか。	学級集団からはみ出さされている子どもを中心に集団づくりを考える。	城南小 五個荘小 千両小	(姫路)	森本俊和 小菅融宣 丸山正克	上野小 東部中 白鷺中 校区教推進協(現地)	(三重)丹羽健哉 (春日井)加納弘雅 (姫路)道上昌幸 本村正直
第3分科会 (特設バス)	地域バスなど、特設バスをどう広げるか。	今日までの実践の洗い直しを軸に今後の方向性をさぐる。	高丘中 林田中 寝屋川四中(寝屋川)	(姫路)	松浦昭一郎 加藤倅一 西尾時雄	校区教推進協(現地)	亀本邦彦
第4分科会 (言語と生活)	言語と生活をどのように結びつけるか。	今日もっとも欠陥している表現力をどうつけていくかを中心に考える。	八万南小 藤山台中	(徳島)	北村艶子 大島郁雄	南部中 校区教推進協(現地)	(豊川)鈴木昭 森岡勉
第5分科会 (社会と生活)	社会生活における社会的認識をどう育てるか。	社会人として、地域を中心として社会状況を適確につかませる教育内容を考える。	勝川小 高座小 旭陽小	(春日井)	佐橋修吾 田本安広 池田正弘	白鷺中 大里中 校区教推進協(現地)	(姫路)高磯忠実 (静岡)安居院達男 住吉光彦
第6分科会 (自然と生活)	自然をみつめ、とらえる力をどう育てるか。	自然認識をどのような教材内容の中でつくり出していくかを考える。	新宮小 八木小 城南小	(兵庫新宮)	平野博 撰肇 山本剛	富川小 泉中 校区教推進協(現地)	(山梨富沢)望月久美子 (岐阜土岐)小島幸彦 岡田真
第7分科会 (数と生活)	かずと生活をどう結びつけていくか。	計算でのつまづきの分析から、指導内容を考えてみる。	中央台小 篠木小 安室東小	(春日井)	加藤孝史 加藤一成 堀江光明	校区教推進協(現地)	屋敷光
第8分科会 (健康と生活)	健康な生活を送るためにはどうしたらよいか。	体力増強に向けての動きの工夫を中心に考えてみる。	小清水小 小宅小	(豊田市)	野村豊治 郡安義之	高座小 東部中 校区教推進協(現地)	(春日井)土屋正広 (春日井)佐善康郎 佐々木・村田 鎗野
第9分科会 (芸術と生活)	芸術的な表現力をどう育てるか。	感動し、そして創造へと向う道すじを明らかにする。	砥堀小 校区教推進協(現地)	(姫路)	柳内翠 長尾・東		

## 11 公開授業一覧

司 会 者	助 言 者
尾上 茂夫 (兵庫) 松本 重雄 (春日井) 国 実 忠 (現地)	塩田 芳久 (名古屋) 四宮 恒夫 (徳島) 梶田 稲司 (愛知) 山崎千代松 (高知)
竹本 篤松 (豊田市) 石部 清和 (滋賀) 堀江 常登 (現地)	永井 辰夫 (姫路) 荒木真寿男 (長崎)
綾瀬 良久 (土岐) 永 浜 進 (姫路) 船越 和吉 (新潟) 井川 武彦 (現地)	鈴木 武士 (姫路) 清水 快雄 (岐阜)
稲垣 菊夫 (瀬戸) 古 川 巖 (徳島) 宮崎 淳右 (長崎) 塩田 博久 (現地)	梶田 正己 (名古屋) 鹿内 信善 (名古屋) 藤原 克己 (愛知)
今尾 啓一 (春日井) 牛尾 照夫 (姫路) 池上 誉雄 (鳴門) 大 成 治 (現地)	高馬 正則 (姫路) 瀬良 賢一 (姫路) 前田 義夫 (明石)
石 原 貢 (姫路) 木原 信之 (現地)	市川 千秋 (三重) 中 川 豊 (姫路) 塩 津 進 (兵庫)
水 野 明 (春日井) 金原 きみ (東京) 賀 戸 文 夫 (現地)	宿南勝之助 (姫路) 望月和二郎 (東京) 杉江 修治 (名古屋)
山本 重信 (兵庫) 田中 雄介 (姫路) 宮地 友成 (現地)	金治 晴治 (竜野)
田中 稔彦 (兵庫) 岩田 鎮人 (春日井) 花木 喬二 (現地)	白 井 仁 (愛知)

- 1 沖友小学校4学級48名 同幼稚園1学級7名  
問題との出会いを大切に、課題をもって追求する子どもを育てる。  
1校時 理科 幼、2年、3・4年(複式)  
2校時 理科 1年、5・6年(複式)
- 2 久比小学校6学級115名 同幼稚園2学級42名  
音楽と体育を中心にして  
1校時 音楽 1,2,3,4年 体育 5,6年  
健康 幼稚園
- 3 豊小学校12学級311名 同幼稚園4学級95名  
学習指導の効率化と視聴覚教育機器の活用  
1校時 算数 2年 社会 4,6年
- 4 豊中学校9学級296名  
出し、ねり、たしかめ合う学習活動づくり  
1校時 社会 理科1年 保体 国語 英語2年  
音楽 国語 数学3年  
2校時 30分学習活動
- 5 斎小学校1学級2名(3年、5年各1名)  
思考性を伸ばす  
1校時 算数 3,5年(複式)
- 6 大浜小学校4学級52名  
子どもの基礎能力を高める指導のあり方  
1校時 国語 1・2年(複式) 算数 5年  
2校時 国語 3・4年(複式) 算数 6年
- 7 豊島小学校13学級394名 同幼稚園6学級117名  
基礎学力の充実をめざして  
1校時 算数 全学年
- 8 豊浜中学校10学級248名  
地域課題をふまえた指導のあり方  
1校時 音楽 1年 体育 社会 2年  
理科 数学3年  
2校時 町内バス
- 9 豊高校6学級233名  
単元単位学習を中心に  
1校時 1の1 英語 1の2 生物 2の1 A 体/家 2の2 B 現国 3の1 A 英語 3の2 B 商法 C 数学  
2校時 数学 地理 食物 計実 化学 日本史 体育



## 17 宿泊について

現地の宿舎に収容力がありませんので、一般参加者は下記宿舎にさせていただきます。

宿泊所

宿泊料金 1泊2食 5,000円

宿泊を希望なさる方は、参加申し込みの際に、1泊につき1,000円の予約金を添えてお申し込み下さい。

なお、現地の都合で離れた場所を宿舎にさせていただいていますので、20日夜と21日朝の送迎バスおよび船の運賃は、現地実行委員会で負担させていただきます。

また、宿舎は上記賀茂川荘だけではありませんが、問い合わせは全て賀茂川荘へお願いします。

19日に宿泊なさる方には、三原駅前16時発・18時発の送迎バスを用意しておりますのでご利用下さい。

無料です。また、送迎バスを利用されない方は、定期バス、三原駅前16時30分 17時35分

18時20分簡保センター行、終点下車、もしくは国鉄呉線竹原駅下車でお願いします。

## 18 その他

受付は、当日各公開授業校別に名簿によって行ない、その時に、宿泊券、弁当券などもお渡しします。

## 19 大会事務局

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

払込通知票										
口座番号	十		万	千	百	十	番			
	広島				4	4	4	0		
加入者名	広島県豊高校区教育推進協議会									
金額	億	千	百	十	万	千	百	十	円	
※										
払込人住所氏名	※(郵便番号)									
備考				受付局日附印						

(郵政省)

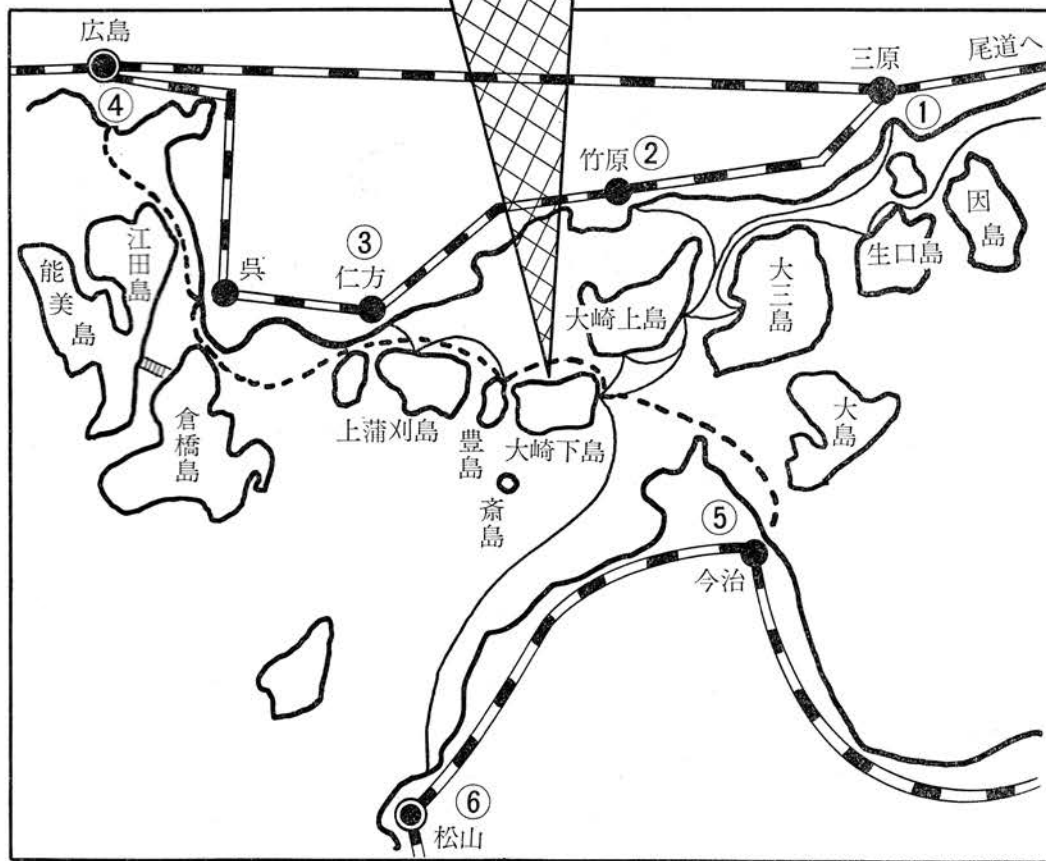
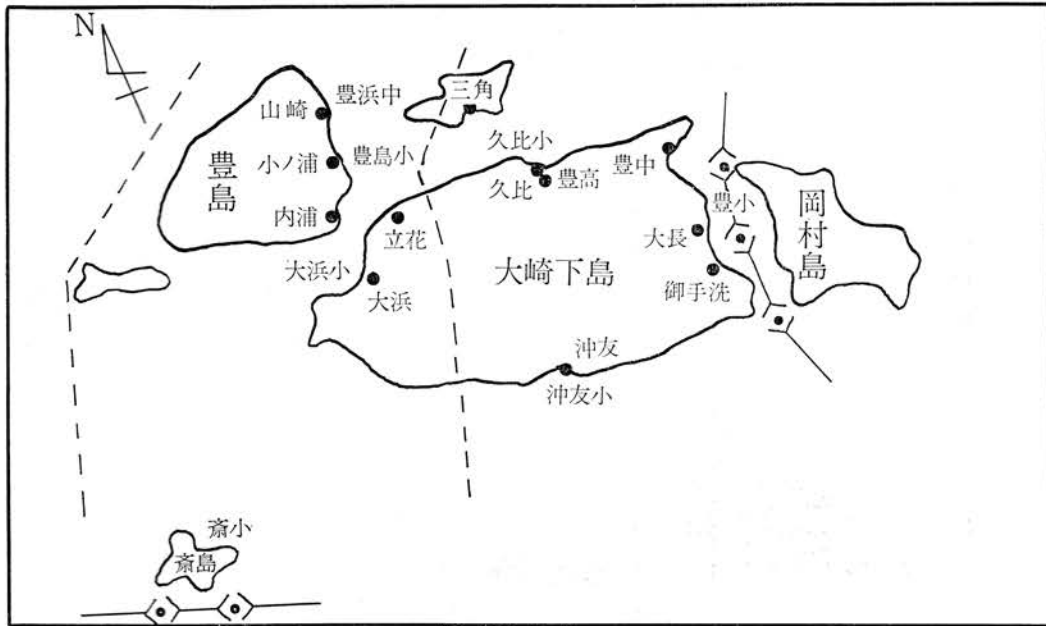
文字は正確明りように、数字はアラビア数字を使ってお書きください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に証明してください。各票の記載事項にまちがいのないことをお確かめください。

払込票										
口座番号	十		万	千	百	十	番			
	広島				4	4	4	0		
加入者名	広島県豊高校区教育推進協議会									
金額	億	千	百	十	万	千	百	十	円	
※										
払込人住所氏名	※									
備考	料		払込み	特	殊					
			円		円					
備考				受付局日附印						

(郵政省)

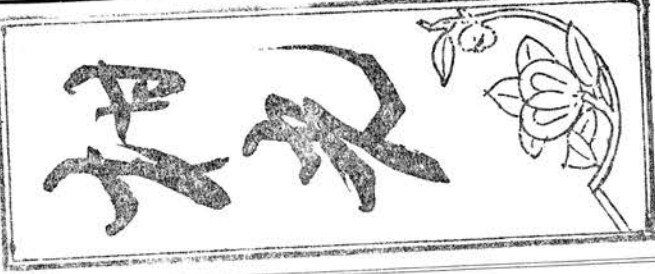
第13回・全国バズ学習研究集会・会場案内図





(1) 昭和53年10月16日 発行

か 人 こ う



豊 田 郡 豊 田 町 A  
豊 田 学 校 P T A  
中 学 校 発 行 所 豊 島 中 学 校 豊 田 町 A

# 地域ぐるみの教育

PTA会長 宮城 秀 実



日本経済の不況は相変わらずで、いつになったら住みよい世の中になるのだろうか。

こうした激変する現代社会の中で、わが豊町でも、昨年より住民参加による町づくりにとり組み、問題を解決するため、地域ごとの話し合い活動を推進し、み

んなで考えて問題を解決し、みんなの手づくりによる住みよい町づくりをしようとしています。

教育問題についても「明るく健康で、知性豊かな島っ子をどう育成するか」を話し合う学校教育問題対策協議会が県に設置され、本町においても、児童生徒の健全育成問題等、学校教育をめぐる諸問題解決のため協議の場として、豊町学校教育問題懇談会が設置され、それぞれの立場で教育問題に展望をもつてとりく

む態勢が表明されました。そのためには、子をもつ親は勿論の事、地域ぐるみで実践力の育成に取り組みねばなりません。

中学校では教年前より、生徒の自主性により地域学習会が行なわれており、生徒たちがそれぞれの学習課題を持ち寄り、究明していく事は、長年学校でとりくんでいる自主、協同、創造の能力態度づくりの現われの一端であらうと思われま

しかし、これも一部の生

徒だけで終わっており、これを組織化し地域に足をおろした地域教育づくりを進めていく上にも、PTAも積極的に参加し、親子の交流を深め、相互理解にたって進めていくならば、地域の教育力をより高めることになると思われま

夏休みに子供たちが自発的に、郷土史の編集に取り組み、お年寄り、先輩たちの協力で郷土史が出来上っていき姿を眺め、先祖の努力により、いろんな苦しみに堪えながら、隣り近所が助け合って、今日の郷土をつくり上げたのを知る事により、人間の心と心の結びつきを守り育ていくことが大切だと思うのです。

次の世代をにう子供たちに期待し、すこやかな成長を助長するためには、学校だけでなく、家庭や地域全体が一体とならねば効果はあがるものではありません。

PTAとしても責任を自覚して行動し、地域ぐるみの教育を推進していく必要があると思



## 第13回 全国バス学習研究大会を

### 迎えるにあたって

学校長 新田 正彦

下島地域にある高校一、中学校二、小学校六校と、附属している幼稚園とが一体となって、表題の教育研究大会が十月十日、二十一日の両日開催される運びになっております。

さて、この大会に、私達豊中学校の生徒・教師・保護者は全国の先生がたに、「何を訴え」「何を教えていただくか」を整理してのぞみたいものです。

それで、大会要綱から整理してみますと、一、地域のもつ教育課題とは、いったい何か。二、この教育課題に、幼稚園から小学校、

中学校、高等学校とが、どのように一貫して取り組もうとするのか。三、このような進め方のなかで、各校が現在、具体的にはどう取り組んでいるか。四、このような教育への手立ては、地域づくりにどう役立つのか、その見通しをどうついたらよいか。等を自分達にも問い直し、他にも求め尋ねたいと願っています。

そこで私達もP.T.Aの皆さんと一緒に、今まで「どんな考えで」「どう進めてきたか」を顧りみて、今後「何を」「どう具体的に進めてゆくのか」を明らか

かにしたいと思

さて、私達は先ず、ひとりひとりの人間をどう見ようとしているのかの理念をはつきりとしておきたいと思

次に掲げることは、わかり切った事、極くあたりまえの事だともいえますし、また現実には、理想すぎるとか、夢にすぎないとの批判もあるかとも感じられますが、まず、

。ひとりひとりの人間は、かけがいのない生命存在である。

。ひとりひとり、人とし

ての共有の願いをきろしうとする欲求に支えられて生きている。

。ひとりひとりの集まりの関わりはひとりひとりの独自性が役立っている。

この理念の上立って、それぞれの生徒が人としての基本的欲求を自覚し、自己の可能性(生涯)にむかって絶えず学習しうる人間へと成長してくれる基本的力量をつけることを願って、教育の実践への道標としているわけです。図示すると次のようになります。

以上三つの相関した内容の確立をめざして、指針法、学習法の改善を「バス学習法」を基礎とした教法に求め数年間歩んで

ここで、「バス学習法」というのは、どんな学習法ですか。「どういふねもあろうかと思

で、私なりに把握して、ます事で説明をいた

これは、教育心理学を研究しておられます名古屋名誉教授塩田芳久先生二十数年間、全国各地育実践者と協同研究





ゆ た か 町

＝ 観 光 案 内 ＝



広 島 県 豊 田 郡 豊 町



豊町は御手洗町・大長村・久友村との三ヶ町村を合体して昭和三十一年三月三十一日（一九五六）新設された。位置は広島県最南端に位し、瀬戸内海の中に介在する孤島、大崎下島の中東部を占め北に三角島・鍋島の二島を擁し東に平羅島・大島・小島の三島を抱え越智郡関前村岡村島に対峙する。

豊町の農産物はみかん専作で水田は無く急傾斜が多く耕して天に至ると云うのは全く豊町の事を云ったものと思われる。みかんを動入する以前は大長桃（油桃若しくはカタチ桃）とその名は高く、之が起源か詳でないが三〇〇年前頃から栽培せられたものゝ如く春時映じて海水紅に染み觀光客船海上に遊弋し毀賑を極めた。然し日清戦争を転期として長足な世運の進歩は一般果樹の嗜好に変遷を来たし、優良品種の要求に転じ経営も成り立たずみかんが桃に替るに至った。豊町に於けるみかんの沿革を觀るにその歴史は極めて古い。豪族河野太郎道直（一五一九）から大三島大山祇神社大祝に宛て病氣見舞として蜜柑（小蜜柑）贈与の礼状書翰二通がある。之が蜜柑文献最古のものである。明治三十六年大分県北海部郡青江村川野氏より早生温州の穂木を譲受け有望なことを当時の篤農家に説き、急速に増殖された。之が現在の青江早生として消費者に賞賛されている。長みかん・丸みかん・天神みかんは豊町で作られるみかんである。みかん需要の増大と共にうまいみかんを作る適地のため戦後急速に増殖され、栽培面積一、〇〇〇ha、生産量二万七千余りの広島県では最大級のみかん産地となっている。みかんの咲く五月と島全体が黄金色にみかんの色づく十月より年末までみかんを食べながらの観光は之又ひとしおである。

御手洗は神功皇后の三韓征伐や菅公の太宰府往還に深い由緒を持ち、特に徳川時代より明治の末期に至る約三百年間の帆船航行時代は瀬戸内海の中央に位し、大阪より下関に至るまでの重要な港として世間に知られ、維新以前は安芸藩と薩摩藩との交易場として又北陸米の集散地として千石船の帆柱は港に林立し、参勤交代時代は九州諸大名の御座船の寄港地として「安芸の御手洗」の名はあまりにも天下に知られていた。

宝暦より文化・文政へかけては商業最も華かであった時代で、其頃は文人墨客の去来跡をたゞず、幕末維新の風雲急を告ぐるや志士の会合も盛んに行われ、かの七卿落の途次しばらく御滞在された事蹟、又桂小五郎と西郷隆盛との間に討幕の件につき取かわせられたる「御手洗条約」の如き、又当地の儒者田坂模案氏と親交ありし吉田松陰先生のしばしば御来訪されし等千載青史に光彩をはなちたるなり。茲に御手洗を訪う人の為に史跡・名勝・其他に就きて略記。

天満神宮 文久年間、船越寿左衛門氏（元男爵の祖父）藩の貿易官として在任の当時菅公崇敬のあまり靈跡を記念せんとて小祠を営み大正六年旧跡保存会の手により改築して現在に至る。

住吉神社 文政の頃大阪の鴻池善右衛門氏広島藩の勘定奉行の仲介にて本殿を寄附し敷地は藩主浅野侯の寄進にて出来たるものなり。

蛭子神社 豊前の小倉から元文・寛保の頃（二百余年前）分神を申受け鎮座ましまして仮小屋なりしも此の土地を守護し給うてかく繁昌するとして宝暦（百八十余年前）現在の社を造営せしなり。

南潮山満舟寺 平相国清盛公安芸守たりし時（七百九十余年前）上洛の砌関前灘にて難航の際、大師の御恩を感じ一字を造りしに基づき其の後しばしば火災にも会い享保九年（二百十余年前）再建して現在に至る。

三宝山登光寺 本派本願寺の末寺にして享保三年（二百二十余年）の建立なり、阿弥 仏は行基菩薩の作と伝えらる。

七卿落遺跡 元治元年七月二十三日公家御下向の砌当地旧庄屋多田勘右衛門宅に三条実実・三条西季知・東久世通禧・壬生基修・四条隆詞その他諸公が宿泊せられたる所により昭和十五年二月二十七日県指定史蹟に編入せられたり。

御手洗井戸 菅公筑紫御下向の際寄港せられ上陸して諸風景を見物中山腹に霊水あり公自ら御手を洗う後人此の所に井戸を掘り井桁を設け此の霊場を長く伝う本町御手洗の名称は之れに起因す。

討幕の議を練った御手洗三藩条約の隠家 維新の大業達成のため身命を賭して国事に奔走した薩・長・芸三藩の勤王の志士たちは慶応三年幕府の目を逃れて瀬戸内海の島に身を潜めた、薩・芸両藩の産物交易所であった金子邸が隠家跡。

隆法寺壁の黒斑 若胡子屋の全盛を極めし花魁が鉄漿をつけんと思ふ様に歯が染まらないのに瀧癩をおこし年若の禿の口へ鉄漿をつぎこみし為め禿は五臓六腑も煮え返り虚空をつかんで悶え死す時についた手の型が壁について今に至るも消えないと言ふ伝説なり。昭和十五年二月二十七日県指定史蹟に編入されたり。（本文若胡子屋の伝説参照）

火の車記念の塔 若胡子屋の主人と富田屋の主人が宝暦年間八月二十三日の月見の頃の折、髪結和助が火の車に乗りて眼の前を通るのを見て回向とて経文一字づゝを一石に彫り込みこれを埋め其の上に建てたものが現在の塔なり。

志士星野文平 天保六年四月本町に生る、御典医良育の弟なり、幼より学を好み天才非凡兄と共に広島に寓し儒を以て藩に仕う。つとに勤王論の先駆となり時世を憤慨して割腹し後文久三年二月十日伏見に於て歿す。友人山田十竹翁墓碑を伏見月橋院に建て後世に伝えたり。

明治二十五年特旨を以て正五位を追贈せらる。

画家大森搜月 当町海老屋源内の子なり。京都に出で、業を大森搜雲に学ぶ、搜雲その器を賞し心を傾けて教授し其の女を以て之を妻とす。天明丙午十月二十二日郷里にて歿す。墓は満舟寺にあり。

儒者林維疏 字は洵美、蔣山と号す、俗称助十郎、詩を好み文章を能くし宝暦より寛政へかけて其の名よく聞えたり。

俳人二疊庵栲堂 松山の藩士なり、剃髪して享和元年此地に來り鹽江に漁蔭と称し俳諧をよくし文化十一年（百二十余年前）歿す。墓は満舟寺境内にあり。

其他画家に多田琴右・天野士襄・越智有州・星野鳳鳴の諸氏あり。  
和歌・俳句に金子善民・金子義之・星野亮晃・田坂義員氏等有名なり。  
女流文学者としては天明の頃中村田鶴子女史あり。

（御手洗町観光協会案内記）

芸子叢島は瀬戸内海でも、特に、島嶼の美を發揮している。島々を縫うように、水尾を引いて走る大小さまざまの船、雲のたたづまい、海の色、さながら絢爛たる絵巻物である。

四国の高繩半島が北の海に落ちゆく関前灘と、野呂山から眼下に展げる安芸灘に接する処に、国立公園一峰寺山を頂き、春ならば、蜜柑の花の香り、秋ならば、黄金の色に錦を飾る蜜柑の島、大崎下島が点在する。



## その昔

「越智郡上島の西部に属する御手洗島と号する地は、野間郡の沖の島というなり、此の島は、西国より京都へ往來の海路、汐時よき船つき場なり、往古神武天帝皇兄五頼命を始め、諸皇兄と共に謀つて、日向高千穂の宮を發し御東征の時、沖の島に風を除け給う時：王公百官御手を洗いて：総ての天神地祇に供日幣饌を備え、遙拝し奉りし時、御手を洗い給いし古跡を慕い、此の島の名に呼びしなり。

皇軍の友船を、此の沖の島へ遣わし置きし処をさして沖友・王浜・帝・供日・王朝・御供日・橋・豊島・齋島など、呼名今に遺れり」（伊予漫遊記）とあり、此の島は、慶長初年頃迄は伊予の国に属し、三島七島の中の一つであった。

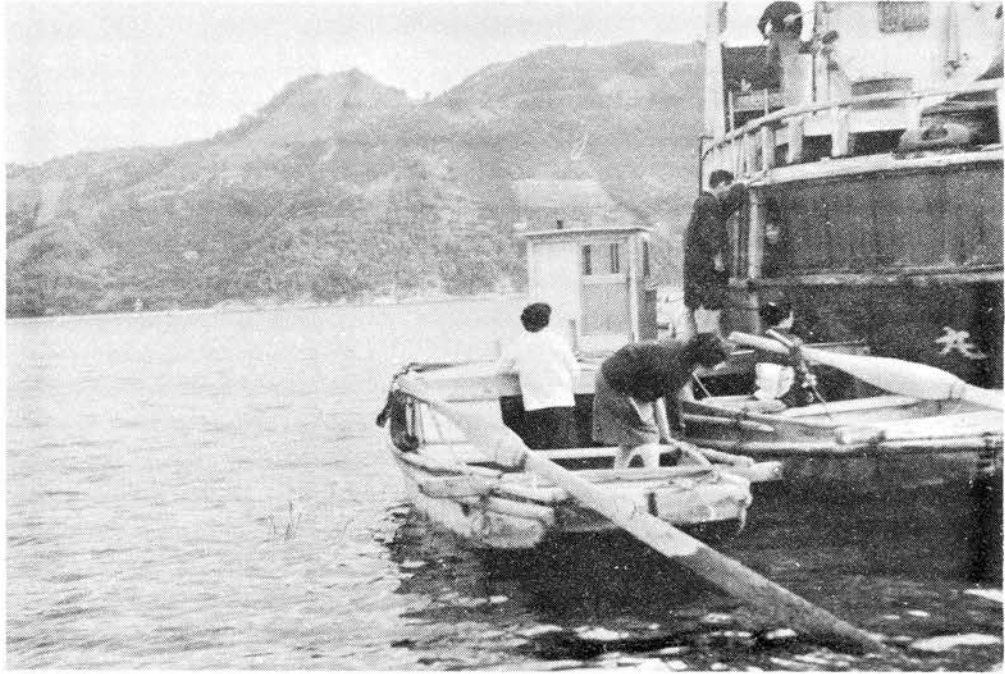
## 情緒と歴史の町御手洗

古くは、桃の島として知られ、文人墨客の詩情をそより、且つは又、遊女とオチヨロ船で、西国諸大名をはじめ、北前船等の船人の旅情を慰めた港町御手洗は、「安芸の御手洗」として、あまりにも有名であり、その道の粹人達を喜ばせた歓楽境でもあった。

神功皇后三韓出征の砌、御手を洗われたと言う伝説、菅原道真九州左遷の砌、本川にて手を洗われた伝説、平宗盛が安徳帝を奉じて壇ノ浦落ちの際等と「御手洗」の地名を由緒づける伝説は定かではないが、ことそれ程に、御手洗の歴史は古く、伝説に埋れた町である。日に幾十隻となく発着する定期船が港に入ると、先づ、女性的な姿態をした伊予岡村島を天然の防波堤にした良港と、古風な町に似合わぬ表玄関の壮大な棧橋が目につく。

かつて内海航路の汐待ち、風待ちの場所として絶好の地であり、





おちよろ船（機帆船に向って漕ぐ）

特に江戸時代に於ける九州、四国の諸大名の参勤交代の時の長の旅路の徒然に、何十艘ともなく華美を尽した舟行列が、舳舻相摩して打った太鼓も勇ましく、関前灘から港入りする状景は、将に一幅の豪華絵巻を相像される。

今も語り、伝えられる細川肥後守などは、一夜千両の黄金をまき散らしたとのこと。更に日本海から関門を経て大阪に至る西廻りの「沖乗り」航路が頻繁になるにつれて、千石船の北前船が続々寄港するにつれて、こゝ御手洗は急ピッチで活況を帯び広く天下にクロイズ・アップされた。

当時御手洗に寄港した西洋人も数多く、独人ケンベル、和蘭人フイッセル、瑞人ツンベルグ等あり、中でもシーボルトは、当町で色情狂の娘を診察して「早く結婚させたら病氣は治るだろう」と言う娘はうれしそうに微笑したと記している。（海内記）

ケンベルは、泊り舟のほとりを愛の女神を乗せた舟（オチヨロ舟）が漕ぎまわった。（参府紀行）とも記している。

秋桜子

幕末に七卿落の公卿三条実美以下五人が長州に走る途次、多田邸に立寄り、数日を過ぎた今も残る七卿館

七卿の仮泊の屋敷ちゃばあやめ

野風呂

更には、平清盛が建立したという南潮山満舟寺、土地は浅野侯、社殿は大阪鴻池寄進の住吉神社、御手洗港繁栄のシンボルとして、浅野侯が築いた住吉波止場、桂、西郷等勤王の土が会合して討幕の議を謀り、御手洗条約を結んだと言われる金子邸等々、枚挙にいとまないほどで、史跡だらけの町、幕府禁制の密貿易も公然と行われ、蘭人テイレマン・バクの滞在。薩藩との産物交易所の設置、上方から九州に下る人形芝居も、こゝ御手洗にだけは小屋を開き、一日数百両と言われた富くじも公然と行われた。時は移り、世は変れど港あるところに色の花が咲くと言われ、オチヨロ船で賑い「花の御手洗」ともてはやされ、亀甲三枚櫓に襦袢姿、三本はまの黒塗高下駄



史蹟 若胡子屋址

の花魁道中を偲んだのも今は昔の語草。

船で宇品へ三時間、竹原と今治へそれぞれ一時間半、地理的位置から日用品は今治の商圏内にある。

向こう伊予路と手と手が届く

ヨウトコサ

人目マタ エッサラサ

人目さえなき ヨウソロ

袖も引く

裏山に登って眼を南東に放てば、雲表に屯する石槌山、村上水軍の拠った来島海峡の灯台が、ほのかに明滅する。

内海の美に瞑想の幾日を送る。

海潮のさす日、真鯛の如く私の魂は踊る

波踊れ、島は笛吹け、鯛舞えよ

南風に、はやてに瀬戸はうつくし

御手洗の浜に来れば瀬戸内は

夕映さしてわが胸は燃ゆ

### 若胡子屋の伝説

(賀川豊彦)

偲べば文化・文政の全盛期に於て「若胡子屋」一軒で百名の遊女を抱えたという。

この若胡子屋に次のような伝説が残っている。時は何時のことか、若胡子屋の花魁が、今日しも一人の大尺客に多額の金を貰って「おはぐろ」をつけることになった(郭の風習で大尺客は相娼におはぐろをつかせせて女房取りにするのが誇りであり、そうさせなければ大尺客として持てはやされなかった)

花魁には何時もかしづいて用足をしている禿がいた。今日も今日とて、言葉やさしく「花魁はおはぐろつけなせ」と言っておはぐろ壺を差し出した。それを受取って羽根筆でつけたが、どうしたものか、其の日に限って良くつかぬ、外のおはぐろ壺と取替えさしたか、どうも思うように歯が黒く染らぬ、金の威光で客はしきりに催促する。花魁も気が気でなくいらだち、疳は高振り、雪かまがう厚化粧の顔には、青い筋さえ浮んできた。

火鉢の側で様子をみていた可愛い禿は、小さい胸を踊らせ眼からは涙の露さえ滴って、不安の色に怖けふるえていた。「エイイ口惜しい」と絹をさくような声、煮えたぎったおはぐろは禿の口へ注ぎ込まれた。禿は忽ち虚空をつかんで悶え、食いしばった唇の間から、おはぐろ混りの黒血が流れ、恐ろしい形相でこと切れた。

それから花魁は良心の哥責にせめられてか、禿の恨みか、鏡を見

る度毎に、禿の姿がうつり「モーション花魁え、おはぐるつけなんせ」と、その声に幾度氣を失ったことか、流石に今全盛の花魁も、若胡子屋にいたゞまれず、前非を悔い、死んだ禿の回向を思立ち四国八十八ヶ所廻りを発心し、今治まで渡った時、「此処から一人で行きなんせ」と言つて禿の姿は再び現われなくなった。

若胡子屋、今の御手洗会館の古びた壁に、禿が苦悶して吐いた黒血の痕が残っている。

## 味覚と御手洗

旅に出て旅情を慰めるものは食物である。

この地に來遊される旅人が、先づ舌鼓を打つものには広島酒と海の幸である。

真鯛、イカ、海老、小雑魚に至るまで活きの良いのと、小味が広島酒とピタリときて左党にはたまらない。

殊に鯛の活づくりに浜焼は、味覚の王だろう。

島に來て日々の花鳥賊 桜鯛

桜鯛目に活きたるをうしほ汁

活きた海老活きた鯛喰う五月の桜

野風呂

海の幸に加えて山の幸には「みかん」がある。氣候と土質に恵まれ、而も瀬戸内の清澄な秋空に黄金の色をして、枝もたわゝに実っているみかんの取りたての新鮮さと香りは又格別のものがある。

みかん、夏柑、レモン、八朔、いづれ劣らぬ山の幸。

紺がすり海よりも濃しみかん摘む

野風呂

## 観光と御手洗

芸予叢島には、三千余の島々が点在する。鞆の仙酔島を東端として、尾道千光寺、瀬戸田耕三寺を経て大山祇神社のある大三島、つ

ゞいてみかんの島豊町を訪れる人々は、年々増加し、都会の騒音と俗塵をさけて瀬戸内海の美を心ゆくまで探美できる。

春は桜の下で広島酒を味わうも良く、漁船を雇つて鯛釣りに沖へ船を浮べ終日鯛の手づくりに舌鼓を打ち。

夏の朝は汐風に吹かれ乍ら緑陰での読書よし、サイクリングで沖友街道を走れば遙かに四国連峯を望み、行交う船の景色も又一人と言うべきか、昼は眺の鼻での海水浴、夜は波止場の夕涼み。

秋は黄金に実るみかん狩り。

冬はアベックで炬燵の中でのみかんの味は又格別。

蜜柑島めぐる潮の瀬激ち合う

碧天を蜜柑ちりばめ島険し

秋桜子

## みかんの大長

大三島や大下島などに囲まれた海は湖水の感じだが、大下島の南側が有名な関前灘の灘所であり、これが木ノ江や御手洗の繁栄を招いたのである。

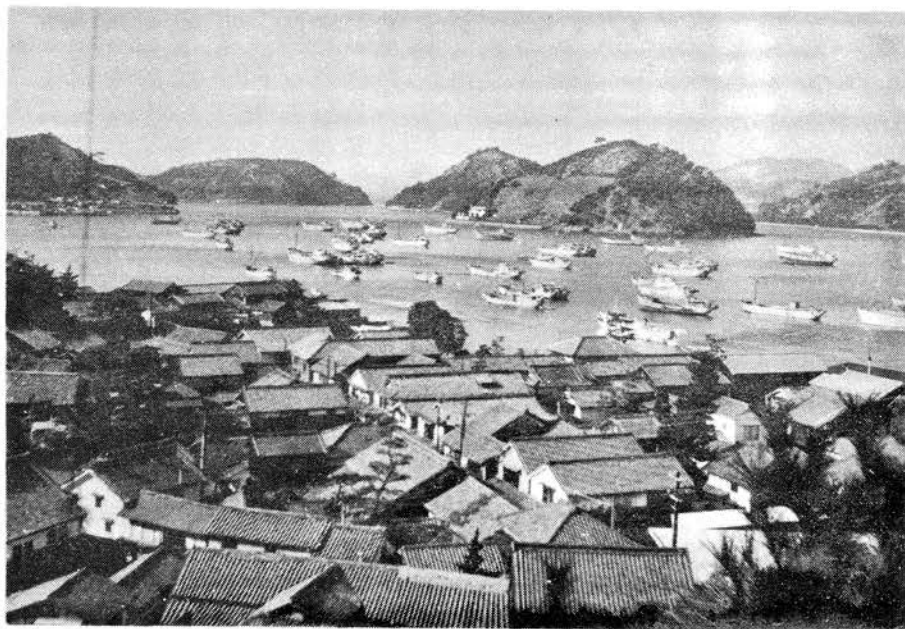
船は沖浦、明石方と山麓の小さい海岸平野に点在する村々を次々と訪問する。

小さな艇が客を積んで漕ぎ寄せる。村の屋根瓦の黒光りがヤケに目につき。しかしこれがゆるい傾斜面の段畑の麦の緑と如何にも調和がとれており、たゞ海岸近く建てられている中学校や小学校の幾何学的な建築構造が夢の世界に挑戦しているかと思われた。

行手の海が大きく開ける。青く煙る山々は、呉か音戸の瀬戸あたりであろうか。

岡村島の後に高く聳えるのは大崎下島の山々だ。明石方部落の丘山に点々とする桃の花を最後に上島と別れ、船は南へ進路を変え、船

岡村島へ衝きあたるかとヒヤリとした所に小さく水道が開け、船は全島みかん畑の岡村島を左に見て、ポツカリ浮んだ雑木林の大島



と小島との間を巧みに抜けるあたり、たしかに島巡りの遊覧船だ、行手に近づく集落は今宵の宿の大長である。

間もなく小さな棧橋に船は横づけとなる。

船長さんとお別れして下船、竹原から一時間四十分である。

狭い道が舟溜りに沿うて村へ続く、大きな肥料店や化成肥料の看板は、さすがにみかんの大長の面目を示している。街頭の高札に掲示された栽培管理の注意書は、町民の協同意識の顕れであろうか。

入江に多数の同型の小舟が繋がれてあるのが目を惹く。

大長は海岸の一筋町でなく、狭い奥地へ向ってグンと伸びているのが如何にも農村らしい。大きな家屋が密集し僅かに通行を許すだけの小道が通じているのは土地に余裕のないためか、ところがこの狭い道が完全にコンクリート畳みになっているのには一驚するよりむしろ奇異にさえ感じた。

今宵の宿のお医者さんのお宅を尋ねた。

その夜村長さんを招いてい座してそれぞれの立場から大いに語った。

村長さんは酒を嗜まねずコーヒーでお相手されたのには恐縮した。

大長は今でこそ広島みかんの本場として広く知られているが、大正時代に入るまではむしろ桃の産地だったのであり、桃の花咲く頃は遠く呉あたりから花見客が押しかけたという。しかし桃は貯蔵が利かず、有利や作物ではなかったらしく、日清戦争を機に桃と並んで貯蔵の利くみかんの栽培が始められたのであるが、早生温州種の導入により桃の栽培は影をひそめ、みかんの大長と化したとのこと。土質は鉄分が多いため酸化分解し易く、根の深いみかん樹の栽培には、きわめて適しているようだ。

大長の特異の風習として末子相続制がある。

長男以下次々と分家し、しかも他行することなくこの地に居を構え、新たに耕地を手に入れてみかんの栽培を始めるため、結局末子が相続することになるらしい。

大長のみかん畑の開拓は既に限界に達していると思えて、四五〇メートルの丘陵の山腹が四〇〇メートルのあたりまで耕作し尽されていることでもわかる。

このような困難な条件に打ち克つ方法としては、勤勉と科学的工夫があるばかりだという。大長七百戸の農家は朝寝坊の夢を驚かす午前五時のサイレンを合図に一せいに行動を開始する。急傾斜の農道を徒手で肥料や収穫物を運ぶ苦勞はケーブル及びモノラックの施設により解消にとめていた。

道路の舗装により輸送中のみかんの損傷は大いに減少したという。大長人のみかん栽培は今では四里を半径として二十二ヶ村、二十五の島々に分布している。出作りをやる農民は二時起きという勤勉さである。入江に見た多数の小舟は農船であり、その数は四〇〇隻に上り、島人は海上トラックと呼んでいる。

真宗どころであり法事の時などは親類縁者を多数招き、盛んに飲み喰いする風習がある。平素の実直な生活の単調を破る効果は確かである。二階造りの大きな構えもこのためらしい。

これが道路の幅に皺寄せられたのであろう。酒と共に尽きざる話を残して村長さんを送り出した後、別棟の二階の座敷へ案内され物音一つしない部屋でいろいろな想像に耽りながら夢の世界へ

(雑誌「旅」―谷山整三氏 昭和二十八年七月より)

蜜柑山のふところに居てきく汽笛

野風呂

蜜柑山の底に目が醒め蜜柑欲し

内藤十夜

大長島の入江には船数多群れり

附近の島より蜜柑を採集し来るを農船

といひ、これを遠く運ぶを機帆船という

農船の潮黄なるまで蜜柑積む

秋桜子

仏教の信心厚き家多し

祖の墓坦せざれども蜜柑坦

秋桜子

### 宇津神社

豊町大長

大正十年九月  
神饌幣帛料供進指定

祭神 天照皇大神 八十狂津日神 神直日神 大直日神 天香々

背男之神 大国主神 高皇産霊神 大年神 木之花咲夜比売神

宇気母智神

殿宇 社殿二間三尺 幣殿六間四尺五寸 社務所二間一尺

神庫二所 五間一尺五寸 二間四尺五寸 拜殿二間四尺五寸

廊下二所 五間一尺 四間三尺 其他神札所控所三所 手水舎三所

神馬舎等

境内 九三三坪

境内社 宇迎神社 宇賀魂神 少名彦名神 猿田彦命

由緒 社伝には孝靈天皇の御宇創建という宝龜四年再建とあり芸

藩通志には宝龜年間八十狂津日神を祭り建保年間神直日神大直

日神を勧請せしというとあり又正徳調書には開基年数不申候縁

記念物無之とあり社に文保二年文明八年 棟札写後 永祿十年慶長十

六年寛文十三年の棟札を存せり其創立詳ならざるも古社たるは

明なり本社は棟札にある如く元と豫州三島七島の内大条浦七郎

大明神と称し三島遙拝所十六社の一にて其七番目に該当す故に

斯く名づく初めは字皆見に在りしを文明八年造営の時此に遷坐

せるなり爾来再三修葺し以て今日に至る而して社号を改めしは

安永三年十一月なり明治四十四年四月村内字琢明八麻能端能端

神社字枝長八麻能端神社字小長豆茂神社字荒神原於久神社水利

美豆奈志神社を合併す。村社に進みしは明治五年十一月なり、

棟札に文保文明永祿慶長等のものあり。社に河野通信奉納の狛

犬あり。四時祭礼の内鹿袴衣祭柔袴衣祭として神衣を供する式あ

り。犬も重き祭礼なりという。

神木胆八樹及マンモスの骨牙等あり

棟札後

文保二年戊午



奉造立七郎大明神御社御棟上 大願主藤原久道 神人(神宮)  
三島 百姓等

十一月十五日

大守小早川平朝臣繼忠公御武運長久 願主小早川佐利

謹奉造立豫州三島七島之内大奈浦七郎大明神御宝殿上棟一字

維時文明八稔申之存 二月朔日

東風崎神社 豊町大長

祭神 志那都比古神 志那都比売神 弥都波能売神

殿宇 社殿一間三尺 拜殿二間

境内 三三七坪

由緒 不明

篠原八幡神社 豊町久比 明治四十年三月十九日  
神饗幣帛料供進指定

祭神 伊装諾尊、伊装冊尊、応神天皇

殿宇 正殿二間 拜殿三間四尺二寸 幣殿一間三尺三寸  
二間一尺二寸 二間三尺六寸 二間五尺二寸

神庫 二間一尺二寸 社務所 二間三尺 神殿上屋 三間四尺二寸  
一間四尺二寸 三間三尺

境内 二八七坪

外 山林二反八畝三步

境内社 貴布弥神社 穀神社

由緒 創建詳ならず天文十六年丁再建の棟札写の他古文書なし明  
明四十年六月神殿上屋敷及神庫建設す明細帳には八幡の字なし

天満神宮 豊町沖友 大正十年九月  
神饗幣帛料供進指定

祭神 菅原道真

殿宇 正殿一間二尺 拜殿三間三尺七寸 幣殿二間七寸  
一間三寸 二間三尺七寸 二間一尺五寸

境内 七二四坪

由緒 天祿二年七月信実なるもの勤請初め信実海上に漂流せる空  
船の着するを見るに神託に違はざりければ着船せる岩上に祀れ

り石を神元と呼び今に存せり若し此石を穢せば崇りありと伝う  
通志にも亦天祿二年未はじめて建つとあり信実の書せる

縁記と称するもの存す大正十年九月村社に昇格

美加登神社 豊町久比 無格社

祭神 市杵島姫神

殿宇 社殿一間 拜殿二間 幣殿一間

称名 寺 豊町久比

宗派 真宗 西本願寺末 元常高寺 伊豫末  
今治末

本尊 阿弥陀

堂宇 本堂九間

境内 五〇四坪

由緒 寛文元年僧教伝再建と伝う通志には龍音山と号す寛文元年  
僧了玄開基とあり。寺に親鸞自刻の像あり左の縁記を伝う。  
親鸞京都五条西ノ洞院にて弘教の折花園某といへる官女之を聴聞して深く信仰し  
後御刺刀を受け法名を貞信と称す此時法話の友かりとて寿像を自刻し之に授けし  
もの即是なりといふも伝来明らかならず

阿彌陀堂

本尊 阿弥陀

由緒 因に堂は往古阿弥陀坊の址なり又此大門には他にも寺院あ  
りて御手洗町登光寺も元と此にありしなりと伝う

薬師堂 豊町久比

往昔東正寺址に建つ其本尊なりといふ

本徳寺 豊町大長

宗派 真宗

本尊 阿弥陀

堂宇 本堂七間  
六間

境内 四三〇坪

由緒 本寺は元と蘆品郡広谷村本山所在照林寺を前身となす同寺  
は宝曆五年三月本哲の創立なりしを大正三年此地に移し寺号を

今の名に改む従来本村には寺院なく正徳頃僅に地藏観音薬師三  
堂ありしのみ後大正年間五領田村長の時新谷琢明金子奥田及閑

の五真宗説教所ありしを全廃して創立したるもの即ち是なり



御手洗小唄

1. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
千島に逢うて 嬉しいたよりを ことずけて  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
2. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
春のいろまち うたごえひどく さんざめく  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
3. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
夏の涼みは 潮風うたせて  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
4. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
秋の月見は 海にさそわれ 波にうく  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
5. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
小唄まぢりの つめ引きさせて 冬ごもり  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
6. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
御手洗小唄 うたいつゞけて かれるまで  
安候の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
7. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
むかしエビスヤ 九十九女郎で 今は寺  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
8. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
なにはばかはんは 帆を休ませて 船ぞろい  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
9. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
櫓太鼓の 祭の声は 瀬戸にみつ  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー
10. 御手洗おいでよ ヨヤサノサ  
よべばこたへん 下の大崎 しまのなか  
安芸の御手洗 おてゝがるよ  
エンヤラセッセノ ヨーイトナー

御手洗女数へ歌（大漁節）

- 一ツトセ 広い日本中に 名も高い  
御手洗女郎衆の数へ教 サテ唄いませう
- 二ツトセ 船乗衆こそ 妄等の  
可愛い殿御よ大切に サテ親切に
- 三ツトセ 御手洗港を 素通れば  
妄しや招いて通しやせぬ サテ行かしやせぬ
- 四ツトセ 夜毎に変わる 枕敷  
されど変らぬ我が心 サテ一筋に
- 五ツトセ いつも仲よく 元氣よく  
櫓拍子に合せて勉めませう サテ励みませう
- 六ツトセ 無理な願と 知りつゝも  
祈りや氣もすむ住吉に サテ頼みませう
- 七ツトセ 波に咲く花 女郎花  
磯の香と塩加減 サテ味のよさ
- 八ツトセ やさしい心を いつも持ち  
客の氣持に添ひませう サテ尽しませう
- 九ツトセ こまかい妄の 力でも  
一心つとめて客の為 サテ町の為
- 十ツトセ 都会にまさる 御手洗に  
奮闘努力で勉めませう サテ勉めませう

御手洗櫓音頭

- 御手洗港をヨ 素通りすればヨ  
彼妓祈るか 風変るヨ  
（トコランブノエーホヤエーカサエ）
- 御手洗女郎衆のヨ 髪の毛は強いヨ  
上り下りの 舟つなぐヨ
- 奮へ若人ヨ 御手洗育ちヨ  
歴史豊かな 我が町ぞヨ
- 今宵一夜はヨ ドンスの枕ヨ  
明日は船底 浪枕ヨ
- チヨロは出て行くヨ 鷗は帰るヨ  
色の港に 灯はうつるヨ
- 御手洗をヨ 素通る船はヨ  
親子乗るかや 金なしかヨ
- 瀬戸の御手洗ヨ ありや良い港ヨ  
今宵仮寝の 旅枕ヨ

斎灘からヨ 西風吹けばヨ  
何時も港は 宝船ヨ

御手洗節

主は三夜のヨ 三日月様じヤヨ  
宵にチラリと 見たばかりヨ

青い松葉をヨ ありヤ見やしヤんせヨ  
枯れて落ちてても 二人連れヨ

逢うて嬉しやヨ 別れのつらさヨ  
逢うて別れが 無けりヤよいヨ

切れてバラバラヨ 扇の要ヨ  
風のたよりを 待つばかりヨ

遠くはなれてヨ 逢いたい時にヤヨ  
月が鏡に なればよいヨ

思い出してはヨ 写真をながめヨ  
なぜに写真は もの云わぬヨ

思い出すよじヤ 惚れよが薄いヨ  
思いさずに 忘れずにヨ

(一カケ、二カケ、三カケテ、四カケテ、五カケ  
テ、橋カケテ、橋ノ欄干ニ腰カケテ、下カラ持  
上ゲリヤ何ノコタナイ)

一、離れ島でも 御手洗ア港 ヨウ トコサ

軒の マタ エッサラサ

軒の下まで ヨウソロ 船がつく

灘子(関前灘なら波が立つ

ヒヨシの木にヤ見られない)(以下同じ)

二、別れつらさに 観音崎見れば ヨウ トコサ

夜明け マタ エッサラサ

夜明け頃やら ヨウソロ ほのぼのと

三、月の出頃か 眺めの沖を ヨウ トコサ

啼いて マタ エッサラサ

啼いて千島が ヨウソロ 通よて来る

四、けぼの薄は 穂に出ちヤ招ねく ヨウ トコサ

招きヤ マタ エッサラサ

招きヤ船さへ ヨウソロ 岸に来る

五、沖の船さへ 一峯山を ヨウ トコサ

指して マタ エッサラサ

指して港の ヨウソロ 中に入る

六、島が邪魔する 大島小島 ヨウ トコサ

恋し マタ エッサラサ

恋し御手洗ア ヨウソロ 島陰に

七、来いと言うなら 観音崎の ヨウ トコサ

潮は マタ エッサラサ

潮は荒くも ヨウソロ 越してゆく

八、向う伊予路と 手と手が届く ヨウ トコサ

人目 マタ エッサラサ

人目さえなきヤ ヨウソロ 袖も引く

九、秋の夜長の 蜜柑の頃は ヨウ トコサ

島にヤ マタ エッサラサ

島にヤ黄金の ヨウソロ 日がつゞく

十、見せてやりたや 住吉様の ヨウ トコサ

松は マタ エッサラサ

松は相生 ヨウソロ 離リヤせぬ

### おちよろ船

一、愛のともづな誰ゆえほどく

瀬戸の入江の おちよろ船

逢うて一夜を甲板の蔭で

君は情けに / 泣く身やら

二、海の男のこゝろの妻と

知って眉引くいじらしさ

どうせ名もない小島の花は

散るが運命と / 言いながら

三、むせぶ汽笛にまた離されて

泣いて見送るおちよろ船

思い切らせて行く人よりも

残るあの娘が / なのいと